事例No.	2883
公表年度	R5
団体の属性	複数団体
団体名	山形県鶴岡市・酒田市

事例区分	行政改革

タグ	・人材確保・育成 ・関係人口

事例種類	人材確保・育成

事例内容・タイトル

事例11・12 山形県鶴岡市・酒田市ー地域共創コーディネーター養成プログラム（東北公益文科大学大学院）その１、その2

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会（第3回）

事例11・12　山形県鶴岡市・酒田市ー地域共創コーディネーター養成プログラム（東北公益文科大学大学院）その１

団体名	地域共創コーディネーター養成プログラム（東北公益文科大学大学院）		運営形態	法人（学校法人が行政、NPO等の協力を得て運営する人材養成プログラム）
活動範囲	複数市区町村（山形県鶴岡市、酒田市、遊佐町、庄内町、三川町、その他市町村）			
中核を担う職員等	任用形態	常勤	出身地	地域外（東京都）
	年齢	50代		

【取組み概況】

○　少子高齢化、人口減少が進む庄内地域の課題解決のためには、より多くの人との対話と参画が求められており、本プログラムでは、多様なメンバー間の対話を進めることができる**「ファシリテーション」**と、多様なメンバーによる連携や協働による課題解決の実践を仕掛けることができる**「コーディネーション」**の力を身につけた**「地域共創コーディネーター」の養成**を行っている。

○　本プログラムは、職業、年齢、性別など多様な**立場の方々**がともに学び合える場となり、受講生が身につけた知識やスキル、ネットワークを様々な地域やフィールドにおける**実践に結びつける**ことを目指している。

【設立の経緯】

○　東北公益文科大学及び大学院の設置については、2001年に**県と庄内地域１４市町村**（現在は、鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町、遊佐町の２市３町）の負担（出資金）により**公設民営の大学**として設置された。**酒田市に大学**キャンパス、**鶴岡市に大学院**キャンパスを設置。

○　2013年に東北公益文科大学が文部科学省**「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）に採択**されたことを機に、鶴岡市、酒田市、NPO法人ぼらんたす（居場所運営、自殺予防等の保健福祉、地域づくりNPO）、庄内ちぇりあ（男女共同参画分野の任意団体）をはじめとする多様な職業を持つメンバーにより地域共創コーディネーター養成プログラム検討委員会を設立し、プログラム内容に関する企画に取組む。

○　以降、**地域共創コーディネーター養成プログラム運営委員会（ボランティア）**が中心となって講座を企画・運営。

事例11・12　山形県鶴岡市・酒田市ー地域共創コーディネーター養成プログラム（東北公益文科大学大学院）その２

【行政との関わり】

○　大学院において鶴岡市から年２名、酒田市から１名学ばせており、これまでに鶴岡市16名、酒田市10名が卒業している。また、地域共創コーディネーター養成プログラムの受講者はこれまでに**鶴岡市27名**、**酒田市28名**が修了している。

○　職員が大学院に通ったり、地域共創コーディネーター養成プログラムに参加したことにより、若手が役所の中でも**プロジェクトチームのリーダー**として活躍しており、地域でのまちづくり活動においてもその地域を引っ張っていき、自主的にトップを自分がやるといって**リーダーシップを発揮**して活動する姿が見られるようになった。

○　また、修了生が集まって役所の中の**様々な企画を考える**ことにつながっている。そうした役所の中の**部署横断的に考え、対応する人材のチームワークが、今後両市の行政運営に大いに貢献してくれる**ものと考えている。

【中核を担う者の状況】

○　**修了生を中心**に約20名で構成する地域共創コーディネーター養成プログラム**運営委員会**により、プログラムの企画・運営を行っており、事務局は東北公益文科大学が担っている。**運営委員会は、皆ボランティア**であり、**１～２か月に１回**のペースで開催し、授業運営の方法等について協議を行い、毎年度**プログラムの改善**を図っている。

○　また、修了生同士の学び合いの場の創出（学習会の開催）、ファシリテーション及びコーディネーションの実践における悩みの共有・相談、自治体、地域コミュニティ、企業等からのファシリテーション及びコーディネーションの**依頼案件への対応相談**など、多様な事項について話し合いと実践を重ねている。

○　さらに、「地域共創コーディネーターチーム」としての多様な地域づくり、課題解決の現場への伴走支援の実績は年々増え続け、社会教育事業担当者へのアドバイス、行政の職員研修プログラムの企画と講師の任も務めている。

○　プログラムの検討開始から9年目となり、東北公益文科大学を拠点に、多様な立場や所属を持つ学生、社会人の**「学び」と「運営」と「実践」の循環**をつくりあげるところまで辿り着いたと認識している。

○　今後の展望として、プログラム内容の継続的な改善に取り組みつつ、地域づくり、地域課題解決における**フラットな関係に基づく対話、協働、共創の価値と意義**をより多くの人、組織等と共有するために発信にも努めて行く。（現在、本プログラムの成果等を発信するための書籍化の準備中。）また、**中高生の若者**がファシリテーションを学べる場も構築したいと考えている。